

2024年度「AI・データサイエンスと医療」教育プログラム 自己点検・評価 報告

目的：来年度以降に向けた改善（参考資料1参照）のため、自己点検・評価を行い現状の問題点を整理する。

対象：（医学部）2024年度1年次および2年次「AI・データサイエンスと医療」

（看護学部）2024年度「アカデミックスキル演習I」「アカデミックスキル演習II」「保健医療統計学」

方法：LMS（WebClass）で実施した授業評価アンケート、および、講義復習テストの結果を分析した。アンケートの回答率は、医学部が平均32.8%、看護学部が平均10.3%であった。

結果：各科目における対象の講義の理解度と興味・関心に対する回答を図1に示す。概ねすべての科目で約80%以上の理解度を示し、興味・関心があると回答した者も80%以上であり、肯定的な回答が多い。

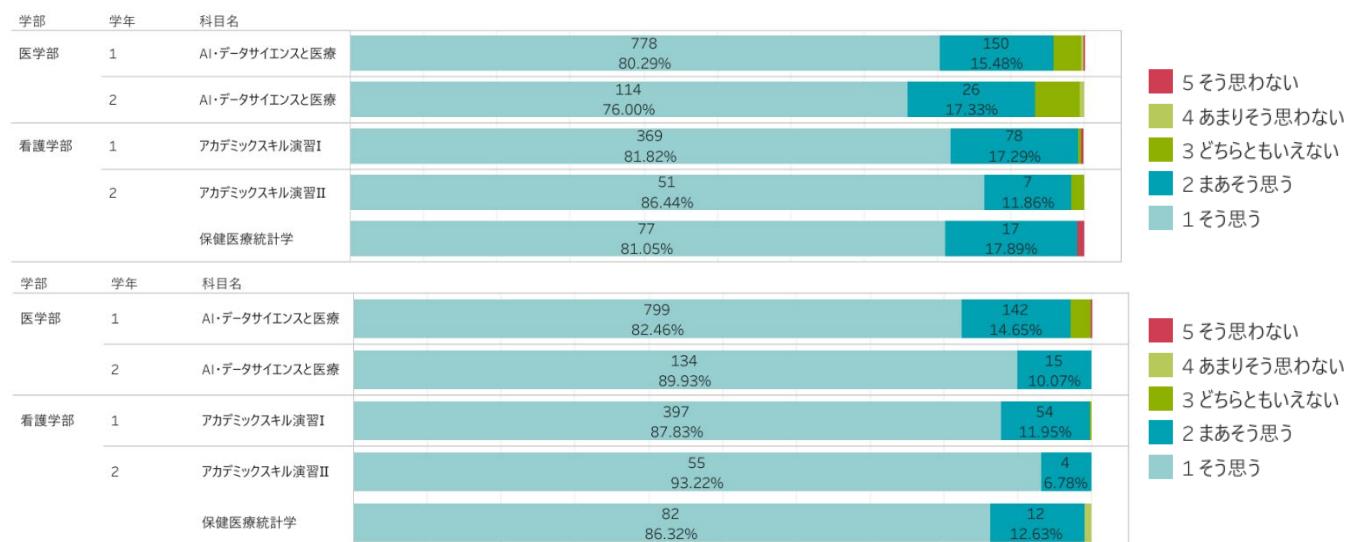


図1.授業評価アンケート（上）「この授業内容を理解できましたか」、
(下)「この授業で興味や関心が深まりましたか」に対する回答結果。

図2では、両学部共通の4つの講義における、講義復習テストの得点率の平均値を比較した。医学部と看護学部のテスト参加率はそれぞれ、68%と29%である。医学部・看護学部共に、「情報倫理」が最も得点率が高かった。また、両学部共に「臨床応用」については得点率が最も低く、他の項目と比べても低いという結果であった。学生は全体的には理解度を高く評価しているが、講義内容によってテストの得点率には差があり、知識の定着には内容に応じたさらなる学修が必要であることが分かる。

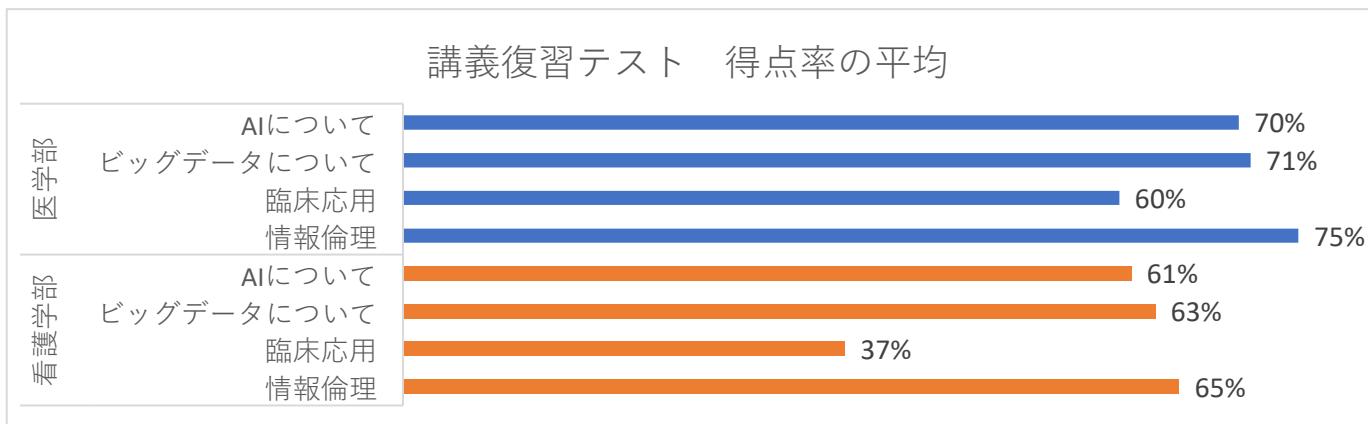


図2. 医学部・看護学部共通の講義復習テストの得点率比較

図3に、各科目の平均GPの平均を示す。看護学部の「アカデミックスキル演習II」を除いて、平均GPは3を下回っていた。医学部においては、1年から2年にかけて「AI・データサイエンスと医療」の平均GPは低下がみられた。1年の講義内容はリテラシーレベルに相当するが、2年の講義内容は応用基礎レベルの内容を含んでいるため、より高度な内容となっていることが平均GPにも反映されていると考えられる。一方、看護学部の「アカデミックスキル演習」については、1年から2年にかけて平均GPは高くなっていた。2年のアカデミックスキル演習IIは、演習時間が十分に確保されており、時間をかけければ課題をこなせて高得点につながることが要因であると考える。

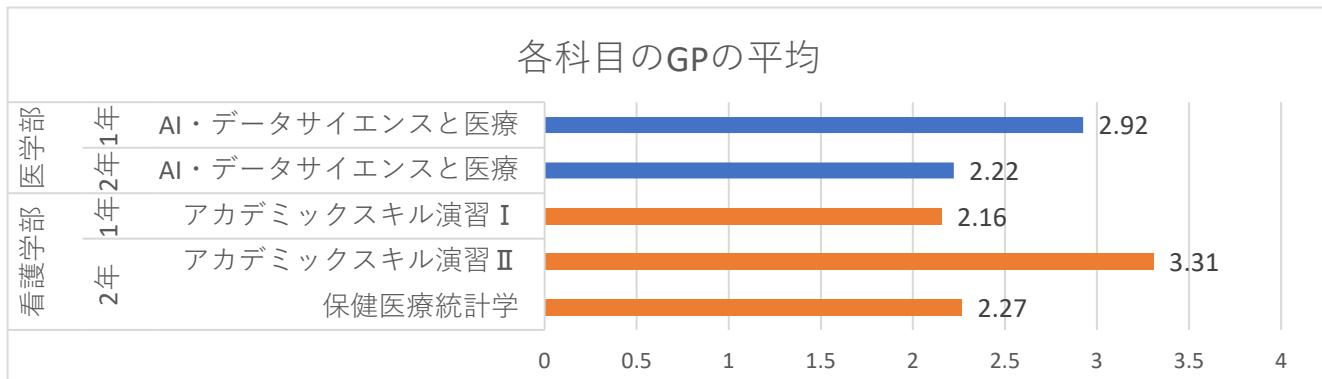


図3. 各科目の平均GPの比較

両学部とも講義復習テスト、授業評価アンケートが実施されているが、回答率は低い。アンケート結果のフィードバックなどを行い回答する動機づけを行うなど、回答率向上の取り組みが期待される。